

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 062	提案機関名 畜産課
要望問題名 処理施設での処理対象ふん尿処理量増加への対応技術について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 混住化の進んだ本県で畜産経営をする場合、家畜ふん尿処理施設で適切に処理することで、堆肥は流通、浄化処理水は河川に放流、また悪臭発生の抑制が図れる。しかし、家畜の高能力化に伴いふん尿の排せつ量の増加により家畜ふん尿処理施設の処理能力を超える事例も散見される。 そこで、既存施設の能力をフルに活用することでふん尿量の増加に対応すべく、施設の増設での対応ではなく既存施設の能力を向上させる技術、例えば堆肥化なら堆積発酵処理時の下部温風送風やハウス乾燥処理時の扇風機設置、浄化処理なら汚水脱水処理や膜処理技術などについて検討いただき、処理能力向上の数値や導入コストなどを提示いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) ①家畜用浄化槽の低コスト改修実証試験 ④酪農経営における家畜ふんハウス処理の最適運転方法の検討 (H13：扇風機設置効果) ④環境負荷物質低減のための回分式活性汚泥浄化槽運転技術の検討 (H13/14：窒素除去効果) ④温風送風が堆肥化処理に与える影響の検討 (H28：密閉縦型堆肥化装置の排気熱返送効果) ④密閉縦型発酵装置排熱からの熱回収・利用技術の実証 (H28：入気ブロワの改修効果)			
対応の内容等 既存施設の能力向上については、家畜ふん乾燥ハウスでは扇風機を設置して蒸散能力が約2倍になること、回分式浄化槽では間欠曝気運転により窒素除去能力が向上すること、密閉縦型堆肥化装置では排気熱の返送や、経年劣化したブロワを規格の大きいものに更新することで処理能力が向上することについて実施済みであり、参考としてください。併せて、堆肥化開始を早くする為の比重確認に、5Lバケツ法※も活用ください。 また、当所オキシデーションディッチ型浄化槽を連続式から回分式に改修予定のため、改修コストやランニングコスト等について実態を調査します。 堆肥化時の下部温風送風については、処理能力が上がる一方で臭気拡散につながることも懸念されることから、吸引方式堆肥化での処理能力時向上と吸引した臭気の脱臭にかかる試験を検討しています。 当所内浄化槽で活用している汚泥脱水機や膜処理技術についても機会をとらえて情報提供してまいります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 ※5Lバケツに水分調整後の堆肥化原料を入れ、バケツ重量を引いて2.5kg以下であれば速やかに発酵が開始される（牛ふんで水分68%以下、通気性確保）。			